



人間関係における社会心理学的研究

生命環境学部 生命科学科

准教授 坪田雄二（つばた ゆうじ）

連絡先 県立広島大学 庄原キャンパス 2407号室
Tel 0824-74-1840 Fax 0824-74-1840
E-mail yuji@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 社会心理学、教育心理学

キーワード： 教師と児童・生徒の相互作用、妬み

● 現在の研究について

教師は、子どもの学力や性格、動機づけなど他側面にわたって影響を与える存在であり、教師の行動によって子どもたちは大きな影響を受けている。それでは、教師の子どもたちに対する行動はどのような要因がかかわっているのであろうか。教師と児童・生徒の相互作用の背後に存在する要因について検討し、それらがどのような影響を与えているのかに興味を持って検討している。

これまでの研究例

○教師の期待及び感情が教師の非言語的行動に影響を与える影響

→教師が各児童・生徒の学力をどのように認知するかによって（教師期待）、教師の微笑み、うなずきなどの非言語的行動に差が現れることがこれまでの研究から明らかにされている。このような教師期待の非言語的行動への表出には、教師が児童・生徒に対して抱く好悪感情が媒介しているのではとの仮説を検討し、期待と好悪感情の両者によって差が生じていることを示した。

○教師の学力期待や認知が児童の回答に対する教師のフィードバックに与える影響

→長時間に渡る授業観察をもとに、教師が児童の回答に対して与えるフィードバックとそれぞれの児童に対する感情や認知との関連性を検討した。その結果、高学力と認知している児童に対して、より肯定的なフィードバックをおこなうこと、児童の従順さや力強さに対する認知も教師のフィードバックに関連していることを見い出した。

○児童の感情認知を促す方略

→他者に対する思いやりを育てることは学校教育におけるひとつの目標である。思いやりのある子どもになるためには、他人の気持ちがわかることがその第一歩となる。このような他者に対する感情認知がどのような働きかけで進むのかを検討した。具体的には、ビデオの登場人物の感情を推測させることを繰り返しおこなわせる方法を用いた。その結果、このような訓練の受けた児童は、そうでない児童に比べ、他者の感情に気づきやすくなることを明らかにした。

また、教師と児童・生徒の対人関係に限定されるものではないが、対人関係において生じる妬みについても検討している。人はどのような状況で、妬みを感じやすいのか、あるいは、どのような特徴を持つ人が妬みやすいのかといった課題を検討している。これまでの結果からは、自分が特定の他者に比べて劣った状況の原因を、自分以外の原因と認識すると妬みを強く感じる事、そして、自尊感情の不安定な者ほど妬みを感じやすいことなども明らかにしている。

● 今後進めていきたい研究について

今後もこれら2つの課題についての検討を進める予定である。

● これまでの連携実績

広島県安全運転管理者等法定講習会講師

広島県保健師助産師看護師実習指導者講習会講師